

# 時の風

第一回なので、私という人間をまず知っていたらどう。1957年1月に鯖江市西鳥羽の県営住宅で誕生。神明小学校では故野形昭二先生が担任であり、菅原英嗣君や吉田精徳君らと同級だった。5年時に福井市八幡山のふもとにある現在の自宅に転居。父が陶芸の窯を構えるためだった。父齋藤光夫は、本名よりも原子光生という名前で知られている。鯖江の住宅の表札には、この名前だけがかかっていた。

## 私の生い立ち

福井の家の町名は最初山奥町だったが、その後月見4丁目となった。江戸時代に松尾芭蕉が福井を訪れたとき、それを記念して、北陸道沿いで月見の句会が開かれたそうだ。そのあたりが本来の月見町である。足羽山と八幡山がはさむ広い地域がかつては山奥町だったが、逆に現在では足羽山のふもとの一部だけが山奥町となっている。

父は福井弁を話さず、関東アクセントだったので、まったく県外から来た人間だと思っていた人もいたようだが、本籍地は粟田部である。粟田部出身の父方祖父と長野県塩尻出身の父方祖母が東京で出会って結婚したが、祖父の繁が、朝鮮半島の小学校の校長をしているときに結核で若くして死亡したので、残された祖母のみだが、塩尻の実家で父光夫を育てた。音楽の教師になった繁が東京音楽学校に内地留学し、すみは牧野富太郎の弟子だった兄田中貢一をたよって東京にでて、牧野の仕事

## 福井と信州にルーツが

を手伝っていた。



私も本籍地は父と同じ粟田部のままで。花筐公園の一角には、私の曾祖父のひとりである齋藤兵庫を表彰した石碑が、今でも建っている。医師で教師でもあった兵庫の弟子たちが建立したそうだ。帰省するとたまに粟田部まで車を走らせ、石碑を拝んでから、好きな蕎麦を食べることになる。

私の母知子は生粋の福井ツ子である。母方祖父谷口弥三郎は福井市松本で生糸の工場を経営していたそうだ。母方祖母マサは後妻であり、福井市経田の前田家から嫁にきた。母のいこには、年齢的には一世代上になるが、奥むめお氏がいる。主婦連合会を組織し、参議院議員になっている。後年、上京したときに母に連れられて主婦会館に

## 国立遺伝学研究所教授 齋藤 成也

たいいつ・なるや 1957年鯖江市生まれ。東京大理学部生物学科卒、米国テキサス大大学院修了。国立遺伝学研究所集団遺伝研究室教授。文部科学省の新学術領域研究「ヤポネシアゲノム」領域代表。専門はゲノム進化学。著書に「日本列島人の歴史」「核DNA解析でたどる日本人の源流」「じんるいはどこどこにいてある」など。

奥氏を訪問したことがある。

私自身の話にもどう。自宅から歩いて10分ほどのところにある豊小学校を卒業後、福井大教育学部附属中学校に入学した。アポロ11号の2名が月着陸をした1969年のことである。衆議院議員をつとめた笹木龍三君が同学年だ。72年に藤島高校に入学した。高校1年時の担任だった田代忠昭先生には、私が2年から理科系クラスを選択したら「君は文化系に進むと思っていた」と言われた。高校3年生の時の同じクラスには、あとで文転した佐々木閑君、豊小でも同級生だった尾野和之君、医者になった三澤利博君、尾野君と同じく建築に進んだ岩堀善広君らがいた。私を含めてこれら5人は、足羽三山文化協

議会は「時の風」でいずれ紹介する。

75年に東京大教養学部理科二類に入学した。農学部、薬学部、理学部に進学が想定されている学類だったが、教養学部2年間でよい成績を収めることができれば、医学部をはじめとした他の学部にも進むことができた。生物学の歴史についても興味があった私は、1年時に山川振作教授が主催した古典論文を英語原文で読むというゼミナールに参加した。そのなかで、メンデルの遺伝法則を二項分布で説明するという、簡単な数学をつかった短い論文が、なぜか印象に残った。それが、翌年出会ったことになる中立進化論を誕生させた集団遺伝学の最初の論文であったことは、そのときには知るよしもなかった。